

押富さん講演会

10月31日、食堂にて「障害を持って地域で暮らすということ」をテーマに講演会が行われました。元職員で作業療法士の押富俊恵さんを講師にお迎えし、56名の職員が参加しました。押富さんは、入職3年目に神経難病である重症筋無力症を発症しました。10年が経った現在は、地域で暮らす重度障害を持った人工呼吸器ユーザーです。医療従事者と患者という、支援する側とされる側を経験したことから見えてきた考え方や思いについてお話ししていただきました。長期入院後の医療的ケアを必要とする重度障害者の在宅復帰は、彼女の住む地域でも前例がほとんどなく、情報を集め、受け入れてくれる事業所を自ら探してようやく帰れる状況であり、また在宅生活を継続するにも時には行政に働きかけ、多くの問題をクリアして現在のサポート体制を構築されているそうです。

押富さんは現在、NPO法人を立ち上げ、障害者問題を知ってもらうためのイベントの企画・運営などの啓発活動や障害を持つ方の在宅生活を支援する活動を行っています。



プロフィール

- 2003年 偕行会リハビリテーション病院に
作業療法士として入職
- 2006年 重症筋無力症を発症
- 2009年 長期入院を経て在宅生活を開始
- 2012年 症状の悪化により再度長期入院
- 2013年 本格的な在宅生活を開始
- 2016年 NPO法人ピース・トレランスを立ち上げる

☆参加した職員に感想を聞きました

- ・医療者側が良かれと考えていることが必ずしも患者が望むこととは限らないことを念頭に置いて関わる必要があると思いました。
- ・患者の立場に立って考え、より多くの選択肢を提案出来るように取り組みたいと考えました。

CORABOSS (コラボス) 名古屋Nへの参加

11月25日にTKP名古屋駅前カンファレンスセンターにて、「地域における痙縮治療を考える」をテーマに当院の田丸院長、西宮協立リハビリテーション病院の勝谷将史先生、沖井クリニックの沖井明先生から報告がありました。コラボスは、関西を中心に脳卒中の下肢痙縮治療に関するボツリヌス治療と装具療法の情報交換する場として設立されました。今回は「地域における痙縮治療」をテーマとして、石川病院の寺本洋一先生が座長となり総合討論が行われました。

装具やボツリヌス療法について在宅への周知方法に対する意見交換や地域における医療機関の役割について議論が行われました。



関西を中心に年4回程開催されています。